



リリースノート

このドライブシステムリリースパックの新しい点は次のとおりです。

LA Network Manager 3.1.3

全般

このバージョンの LA Network Manager は、Windows 8 および macOS 10.12 に対応する最終バージョンとなります。

Setup ページ

- **Operating Mode Selector** にて P1 ライブモードを有効にして : RTA で使用する 1~4 のマイク入力を事前定義 (マイク 1、マイク 1~2、マイク 1~3、マイク 1~4) から選択します。

Tuning ページ

- P1 ラベル : **Processor control panel** にて、それぞれのタブから入力、出力、バスごとにカスタムラベルを定義 (名づけと表示) できるようになりました。これらのラベルは **Matrix** タブ、および **Output** タブの Audio Source Selector にも表示されます。

Live ページ

RTA インターフェイスにおける新しい機能 :

- マイクプリアンプのゲインをドロップダウンメニューから直接変更できます。
- 入力信号レベルが -2 dBFS を超えると、クリッピングリスクを示すオレンジ色を表示します。
- 入力信号レベルが 0 dBFS に達すると、赤色を表示します。
- 3 つの RTA カーソルモード : フリー・値トラッキング・最大トラッキング
- 新たに設けた **ナロー** バンドモード。

ドライブシステム ファームウェア 2.10.3

- P1 ラベルに対応。
- RTA のマイク選択に対応。

詳細はアプリケーションに同梱されているヘルプを参照してください。

詳細はダウンロードパッケージに含まれる **LA4**、**LA4X**、**LA8**、**LA12X**、**P1**、**LS10** のオーナーマニュアルを参照してください。

修正した問題

LA Network Manager

全般

L2-4204	macOS: LA NWM を実行中のコンピューターがスリープモード→ウェイクアップしたり、ネットワークカードのイーサネットケーブルを外して再接続したりすると、RTA と AVDECC で選択したネットワークカードがオプションメニューに表示されなくなります。macOS 10.14 以下では RTA と AVDECC が機能しなくなります。セッションを保存し LA NWM を再起動してセッションをロードしてください。
L2-4391	M1 パネル: マルチスリープレコーディングのシーケンスにて、すべてのスリープを検証すると LA NWM が予期せぬ停止となることがある。

セットアップページ

L2-4216	Load Checker: .lck ファイルにユニットタイプが正しく保存されない。
---------	--

チューニングページ

L2-4310	マスターP1 を新しいグループに割り当てた後には、M1 パネルを開けなくしました。
L2-4358	M1 パネルを開く前は、セッティングプロテクションにチェックが入っていない。

ファームウェア

F1F-2040	PA-VA: 周期的に LF テストを行うとスピーカーに望ましくないノイズが発生することがある。
F1F-2049	Speaker Handling のレポートが早すぎる。

既知の問題と制限事項

LA Network Manager

全般

L2-1385	L-NET ネットワークと同じサブネットには 1 枚のみのネットワークカードを設定する必要があります。
L2-2356	Windows 10 の一部のコンピューターでは、LA NWM が同じコンピューターで動作しているとオーディオの再生が中断することがあります。アンプリファイドコントローラーの IP アドレスを連続した値で設定し、それに応じてスキャンオプションの IP レンジを調整すると状況が改善されます。
L2-2366	P1 : LA Network Manager からのコンフィグレーションファイルマネージメントは機能しません。コンフィグレーションファイルは P1 フロントパネルからのみマネージメントできます。
L2-2490	P1 : セッティングプロテクションは機能しません。
L2-2559	Windows : 特定のポートで USB ネットワークインターフェイスカードを初めて使用する場合、LA NWM の AVDECC 1722.1 コントローラーが動作を開始できるように、USB ネットワークインターフェイスカードを接続した状態で PC を再起動する必要があります。
L2-3284	P1 : メディアプレーヤーのリモートコントロールは機能しません。メディアプレーヤーは P1 のフロントパネルからのみ操作できます。
L2-3286	P1 : プロセッサユニットのリミッター動作状況は表示されません。(ライブページの L-DRIVE Gain Reduction を除く)

セットアップページ

L2-234	ユニットマッチャー上で複数のバーチャルユニットの IP アドレスをまとめて変更する場合、移動元と移動先のセルが重複していると移動できません。
L2-1644	スタンバイユニットは PIN プロテクションを表示しません。
L2-1886	L-NET プライベートネットワーククラスがクラス C でない場合、ファームウェア更新プログレスバーが 95% で停止します。ファームウェアの更新は有効なので、[キャンセル] をクリックして終了してください。
L2-1918	ファクトリープリセットが選ばれているユニットをファームウェアアップデート : 好ましいユーザープリセットメモリーへの振り分けが考慮されません。
L2-2057	ユニットマッチャーからの IP アドレス変更が正常に適應されないケースがあります。
L2-3170	ファームウェアアップロード終了時に P1 が "disconnected" の赤色ステイタスになります。(ファームウェアアップロードには影響を与えません。)
L2-3485	最新バージョンの Windows 10 で動作する Microsoft Surface Pro 4 では、特定のダイアログボックスでタブレットペンによるクリックが機能しません。
L2-3662	アンプリファイドコントローラー : プリセットローダーを開くと追加の AES エラーがレポートされます。(該当する場合に)

チューニングページ

L2-2486	P1 : グループパラメーターのコピー/ペーストができません。
L2-2527	P1 : ユニットパラメーターのコピー/ペーストができません。
L2-2898	P1 : コンパクトビュー時に P1 バーチャルユニットのコンターEQ・グループゲイン・グループディレイは表示がリフレッシュされません。
L2-3260	P1 : コントロールパネルの Bus タブにあるディレイ単位は常に ms です。
L2-3285	P1 : P1 のグループには Polarity コントロールがありません。
M1002-749	M1: 現在、別セッションで測定したシステムレスポンスなどの基準曲線をインポートできません。回避策：基準曲線のインパルスレスポンス (IR) をポスト EQ でエクスポートし、ワークスペースに仮想のアンプリファイドコントローラーを追加してグループにアサイン、グループをロケーションにアサインし、オープンループ (ノイズのみ) でレコードした後、EQ タブでメンテナンスメニューからリファレンス IR をインポートします。
M1002-1346	複数の P1 による M1 : マスターP1 による測定中はスレーブ P1 がミュートされます。測定中にスレーブ P1 のミュート解除が必要な場合は、スレーブ P1 をスキャン範囲外の IP アドレスに設定してください。

ファームウェア

	LA4X はファームウェアアップデート中に接続しているスピーカーから低レベルのクリック音が発生します。
F1F-110	大音量の音声信号を入力した後に音を止めた場合、SIGNAL LED が点灯したままになることがあります。
F1F-1235	P1 : セッティングプロテクションは機能しません。

推奨事項

ネットワークセットアップ

- Ethernet ディジチエイン接続を用いる場合、LA4X/LA12X の下流に LA4/LA8 を接続してください。
- 冗長ネットワークトポロジであっても、ネットワーク上で LA NWM を実行できるのは **1 台** のコンピューターのみです。この場合は LA NWM をプライマリネットワークに接続します。プライマリネットワークとセカンダリネットワークの両方に接続しないでください。
- LA NWM を実行するコンピューターとユニット間是有線接続してください。WiFi 接続よりも安定して動作します。
- 無線によるリモートコントロールを行う場合は 2 台のコンピューターを用います。有線 NIC を介して LA NWM が動作している 1 台目のコンピューターをホストとして、2 台目のコンピューターから WiFi 越しにリモートコントロールします。一般に認知されているリモートコントロールソリューションには、VNC、TightVNC、TeamViewer、Splashtop などがあります。
- より優れたパフォーマンスのために：1 Gb/s のイーサネットを用い、アンプリファイドコントローラーの IP アドレスを連続させてください。（LA NWM の IP スキャンレンジを適切に狭めてください。）
- 1 台のコンピューターから WiFi と有線を同時に LA NWM のネットワークに接続するとユニット検出に障害が発生します。どちらかを無効にすると問題が解消します。
- L-Acoustics ユニットのコントロールとモニタリングには、専用ネットワークの使用をお勧めします。他の機器とネットワークを共有する場合は、L-Acoustics ユニットの IP アドレスとは異なる IP アドレスが割り当てられていることを確認し、通信障害が発生しないようにしてください。

互換性



Crestron®、Extron®、Q-SYS™などのサードパーティ製制御ソリューションを使用したシステム

サードパーティ制御ソリューションを使用しているシステムの所有者およびエンドユーザーは、LA NWM を更新する前にシステムインテグレータに連絡を取り、更新がシステムに関連しているかどうかを必ず確認してください。

ファームウェアバージョン

- 全てのユニットが同じファームウェアバージョンで動作していることを確認してください。
- ファームウェアバージョン 2.10.3.3 以上で動作させてください。
- LA NWM バージョン 2.5.1 以降は、ファームウェアバージョン 1.x で動作する LA4 / LA8 ユニットの検出しません。ファームウェアバージョン 1.x で動作する LA4 / LA8 ユニットのアップデートするには NWM 2.4.4 を使用します。ダウンロードしたパッケージに同梱されている **LA NWM Installation** 技術資料を参照してください。
- ファームウェアを 2.10 以前のバージョンにダウングレードする場合は、ターゲットとなるファームウェアのバージョンを含む LA NWM を使用します。（**LA NWM とファームウェアの互換性の問題**に関する技術資料を参照）最初にアンプリファイドコントローラーをダウングレードし、次に P1 をダウングレードします。P1 のダウングレードはフロントパネルに **Waiting for reboot** が表示されるのを待ち、電源を OFF→ON します。

カスタムプリセット

- このバージョンで作成したカスタムプリセットは、以前のバージョンの LA NWM では使用できません。
- プリセットバージョン 1.x または 2.x で作成したカスタムプリセットは、このバージョンの LA NWM とプリセットバージョン 3.x 以上のプリセットを用いて**必ず**作りなおしてください。

セッション

- LA NWM 1 *.system ファイルは、このバージョンの LA NWM では開けません。新たに作り直すことをお勧めします。
- LA NWM 2 *.lscs または *.nwsys ファイルは、このバージョンの LA NWM で開けます。1.x または 2.x のプリセットが含まれている場合は、バージョン 3.x 以上の対応するプリセットに**必ず**置き換えてください。
- このバージョンの LA NWM で作ったセッション (*.nwm ファイル) は、以前のバージョンの LA NWM では使用できません。

プリセット



ユニットが古いプリセットを使用しているセッションファイルから作業を行うと互換性の問題が発生することがあります。LA NWM に組み込まれているプリセットライブラリーから各ユニットに対応するプリセットをロードし、セッションファイルを更新することをお勧めします。

詳細は **LA NWM Optimization** 技術解説書を参照してください。

- LA12X にはバージョン 5.4 以上のプリセットを用いてください。
- プリセットバージョン 1.x または 2.x で作られたプリセットは、本バージョンの LA NWM を用いてプリセットバージョン 3.x 以上に必ず置き換えてください。
- プリセットライブラリーのバージョンが 4.x 以降の[K1][KARADOWNK1][K2_xx]プリセットは、プリセットライブラリーバージョン 4.0 未満の[K1][KARADOWNK1]プリセットとの互換性はありません。
- LA8 用プリセットライブラリーバージョン 4.0 未満の KARA、ARCS II、KUDO プリセットは、LA4X に対する互換性はありません。

詳細はダウンロードパッケージに含まれている**プリセットガイド**を参照してください。

詳細はダウンロードパッケージに含まれている **LA NWM and firmware compatibility issues** 技術解説書を参照してください。

セッションファイルをロード中にユニットとの接続が切れた場合

セッションファイルのロード中にユニットとの接続が切れたことが**メッセージセンター**に示された場合、セッションファイルをもう一度ロードしてください。

ユニコード以外の文字

セッションファイル名はユニコード文字を用いてください。（日本語は用いないでください。）

AVB

- AVB ドメインの構築に使用できるのは AVB ブリッジのみです。 トーカーとリスナーの間に AVB 非対応の LA4X または LA4 / LA8 を挿入するとドメインが分割されるため、これらの非 AVB ブリッジを介したデバイス間でのストリーミングはできません。
- リダンダントネットワークを用いる場合、両方のネットワークをブリッジしないでください。特に次のことを確認してください。
 - 両方のネットワークに接続しているユニットがリダンダントモードに設定されていること。
 - LA4X、LA4、LA8 など、リダンダントモード非対応のユニットはプライマリネットワークにのみ接続されていること。
- LA NWM から AVB を制御する場合は有線接続のみ使用できます。LA NWM のオプションズメニューから AVB ドメインに接続している NIC を選択します。
- メディアクロックソースが、同じ対話に参加しているすべてのデバイスで一意のものであることを確認してください。アンプリファイドコントローラーは常に取り込んでいる AVB ストリームのメディアクロックソースを利用します。P1 のメディアクロックソースは、**Input Mode Selector** で設定します。
- Setup** ページにて、リスナーP1 およびアンプリファイドコントローラーの **Input Mode selector**、トーカーP1 の **AVB Talker selector** のストリームチャンネルマッピングが希望どおりに設定できていることを確認します。
- P1 の AVB をメインのソースとして使い P1 のアナログまたは AES をフォールバックソースとして用いる場合、**Setup** ページにて P1 **AVB Talker Selector** から **Time-Align to AVB** オプションが有効になっていることを確認します。

M1

記録後にアサインを変更すると測定値が削除されてしまう可能性があるため、**Tuning** ページで測定を記録する前に、**Setup** ページですべてのユニット対グループのアサイン、グループ対ロケーションのアサインをダブルチェックし、すべての親グループが **EQ** タブや **Autoalign** タブで正しく表示されることを確認してください。

M1 パネルのマイク入力について

- 測定を記録する前に P1 ライブモードが無効になっていることを確認してください。無効化されていないと記録後の測定値が表示されません。
- マイクがミュートされている場合 M1 **Record** タブのマイクレベルの背景が灰色で表示されます。記録前にマイクのミュートを解除してください。

P1 のバスを通して測定する場合は、LPF / HPF / ノッチフィルターを無効にしてから記録を実行し、その後に M1 でこれらのフィルターを適用し、正しくモデル化されたレスポンスを得ることをお勧めします。

Record タブのスィープ設定：ソフトウェア同梱のヘルプファイルを参照してください。

システムアラインの推奨：

- 作業を始める前にすべてのアンプリファイドコントローラーと P1 バスの極性を+に設定します。
- M1 コントロールパネルの **Autoalign** タブからのみ極性の変更を管理します。
- すでにアライメントをとったエレメントのシステムの一部を他とアライメントするには、アライメントをとった部分を含む追加のグループを用いて反復処理します。以下にその例を掲げます。
 - サブとメインのアライメントをとった後にフロントフィルとのアライメントをとる場合、**Autoalign** タブでサブグループとメイングループの 2 つのグループをフロントフィルにアライメントするのではなく、追加のグループである"Sub +Main "を使用してサブとメインを "Front-Fills "グループにアライメントします。
 - この作業が終わった後に、"Sub+Main+FF"を使って"Out-Fills"とのタイムアライメントをとります。

RTA

Live ページで RTA インターフェイスを使用する前に、Setup ページの Operating Mode セレクタから P1 Live Mode を有効にします。

ネットワーク上に複数の P1 が存在する場合、1 台の P1 のみ P1 Live Mode を有効にすることをお勧めします。他の P1 の P1 Live Mode が無効になっていることを確認してください。複数の P1 で RTA を有効にする必要がある場合は、3 台を超える P1 で Live Mode を有効にしないでください。